

UIUC(University of Illinois Urbana-Champaign)での春学期が始まってから約1ヶ月が経過した。今回は主として今学期履修している科目の進行状況について報告する。

天候

先月から今月の初めにかけては非常に気温が低かったが、中旬あたりから気温が少し上がってきた。天気も晴れの日が多いので、過ごしやすい日々を送っている。2月、3月も非常に寒いと聞いていたので、厚手の上着を買ったのだが最近はず着ることが少ない。

講義

先述したように春学期が開始してから約1ヶ月が経過した。先学期に比べると今学期の方が忙しく感じている。

<ESL114>

この科目に関しては、履修前に友人から課題が多く大変だということを聞いていたが、実際その通りであった。writingの課題は週一回ないし二回出される。定期的に行われるjournalと呼ばれる課題は、Course Packと呼ばれるtextbookのエッセイを読んでそれについての自分の意見を書くといった内容である。また、このjournalとは別の英作文の課題も与えられる。

この科目の主な目的はacademic writingの作成能力向上である。いわゆるfree writingではない理論的な文章を書くためのテクニックを学ぶ。具体的には、論旨の展開の仕方や、いかに首尾一貫性を持たすかなどといったテクニックを学んだ。

この科目では、academic writingの作成能力向上の他に、自分の将来の職業について考えるといったことも講義内容に含まれている。先に述べたjournalとは別の英作文の課題はこれに関するものである。現在取り組んでいるリサーチペーパーは、自分の興味、これまでの経験などから自分に向いていると思われる職種を複数あげ、それらについて調べ自分に合ったものを見つけるといったものである。調査の際、その職種に関するインタビューを行わなくてはならず、インタビューの仕方などについても学んだ。私は、現在FSAEの活動でお世話になっているMiller教授にインタビューすることにした。教授は過去に自動車会社に勤務していた人なので、企業のEngineerとして、またProfessorとしての経験、意見を聞くことが出来た。これは科目の課題ということを超えて、私にとっては啓発的で有益な経験であった。

<TAM152>

静力学の科目であるこのクラスは週3回のlecture classに週1回のdiscussion classで構成される。lecture classは大教室で教授が講義を行うといったものである。discussion classはlecture classとは違い、約15人の少人数で行われる。講義と言うよりもTAに分からない問題に関して質問するための場といった印象が強い。

宿題は毎回与えられ、授業開始前に提出しなければならないが、比較的課題の量は少ないのでそれほど大変ではない。しかし、他科目の課題が多く、そのためにこの科目の勉強にあまり時間を割けないのが実状である。

<EALC150>

日本文化を学ぶこの科目も負担の大きい科目の一つである。lecture主体のクラスなのだが、教授の話す速度が速いので、講義がなかなか聞き取りにくいのが問題である。

先日、この科目の課題を一つ終わらせた。西暦1600年までの日本の歴史で何か一つテーマ

を見つけて essay を書くという課題である。基本的に講義で用いているノートや本以外は参考にしてはならないということになっている。しかも”yes, but…”形式、つまり「一般ではこういう説になっているが、しかしこういう見方もある…」といった具合に、いわゆる counter argument を用いて essay を書くことを要求されたので、まずテーマ選びに苦労した。

テーマは「鎌倉幕府の確立した年」にした。多くの人は鎌倉幕府が成立した年を 1192 年と覚えていると思う。実際に私もそう覚えていた。確かに 1192 年は源頼朝が征夷大将軍に任命された年であるが、具体的に各地域を支配下に置いたのは守護、地頭を設置した 1185 年であるとされている。そこで私は一般論である 1192 年説に対する counter argument として 1185 年説を選び、その有効性を論じることにした。しかしいざ書き始めても、自分の頭のなかでのイメージを英文にするのがまた難しく、時間をかけた割には内容の薄い essay になってしまった。今後も essay の課題はあるので、次は今回より良い essay にしたい。

日本人以外の友人にこの科目を履修していることを話すと、決まって「じゃあ、君にとっては簡単なクラスだろう」と言ってくるが、実際にはそうでもないと言いたいところである。

<ME393>

先学期に引き続き今学期も FSAE で Tire Testing というテーマで作業を続けていくことになった。早速、今回の新しいチームメンバーたちと教授を交えてミーティングを行った。しかしながら、先学期はパートナーが私と同じく大学院生で ME393 という大学院科目としてこれを受講していたのに対し、今学期の新しいチームメンバーたちは学部生で、彼らはこれを ME280 という学部科目として履修しているので、私自身の作業担当や位置付けに関して、当初良くわからなかった。結局、週一回の FSAE の全体ミーティングでのプレゼンテーションは基本的に ME280 の活動なので、私は参加する必要がないとのことだった。ということは、Final report は私が ME280 の連中とは別に書いて提出する必要があるのかと考えたが、それも必要ないとのことであった。確かに履修科目タイトルは違っているが、やっていることは一つなのであるから、それに関して Final report を二つ出すというのも不自然である。よって、Final report も先学期のように、全員共同で書き、私もその一部を担当するといった形になると思われる。

次にチームの作業内容について述べる。タイヤ試験機は基本的に先学期終了の段階ではほぼ完成していたのだが、各種センサ類の配線は手付かずだったので、まずは配線することから始まった。完成するにはそれ以外にもいくつか作業が残っている。実際のタイヤ試験の際に用いるデータ収集機器は 3月上旬に納入予定となっているので、それまでにこれらの作業を終わらせる必要がある。データ収集機器のマニュアルは手元にあるので、それを読んでメンバーで配線等の作業をしているのだが、これがまた私にとって読むのが至難の業で、苦労している。

その他

2月7日に Wisconsin にあるスキー場へ行きスノーボードを楽しむことが出来た。J-NET という、日本文化に興味のある UIUC の学生たちのグループが企画したスキーツアーなのだが、正直言って留学中はスノーボードを楽しむことなどないだろうと思っていたので、非常に嬉しかった。

UIUC での春学期も始まり、私の留学期間も残り 3ヶ月を切った。留学に悔いは残さないように気を引き締めて今後の活動に取り組むつもりである。

以上